

公開状宛先：心華露光シェリー シャイアト、住持、禪スタデイ ソサイエティ理事会員

発送人：オリヴィア ()

日付：2011年 8月22日

私はこの公開状を2011年8月28日に大菩薩禅堂で行なわれる予定の会議に備えて書いています。私はこの会議に出席する事が出来ませんので、2011年8月4日、師心華シェリー シャイアトが禪スタデイ ソサイエティ宛に送った手紙に答えるものとして書いています。私は嶋野栄道より法名を授かり、典座として長く奉仕しました。

1年2ヶ月前、私はロバート エイトケン老師のブログに出会い、嶋野栄道の40年に渡る数限りない女性蹂躪の報告の叫びを見ました。相次ぐは多くの大衆による空前の目新しい供述でした。その趣旨は殆ど複雑で困難な嶋野栄道に対する忠義心を強調し、彼との関係を完全に絶つよう禪スタデイ ソサイエティを援助したいと言うものでした。今日までこのためのきっぱりした絶縁の善処はなされていません。ある投稿者はこのような絶縁の処置は嶋野栄道自身にとっても好ましいことであると指摘しています。

この公開声明に一番欠けているものは、嶋野栄道により実際に犠牲となった女性達の直接公開陳述です。多くの犠牲となった女性達は非常な努力と個人的献身行為を払って、前理事会、現理事会と交渉し、注目を得ようと試みて来ましたが、彼女等の最も切望する、つまり、彼女らの体験に対する理解ある返答は得られませんでした。多分この事件は合意による“恋愛事件”であるか、又は性の誤用、もくろんだ上での欺き（精神的虐待）であるか不明瞭な為かもしれません。僧伽のメンバー達に休息のための週末があるように、人目を避けて隠れていたい私自身の権利もあることながら、私や他の女性達を傷つけた問題に黙認を続けることは出来ないという責任を感じました。多くの人びとも言っている事ですが、過去の出来事が真実に確認され、現理事会が完全に適切な処置を取る迄、ほんとうの意味での回復はありません。

更に、私には嶋野栄道に会う前、陵辱問題とそれに関連する複雑な事情があつてまだ十分回復していなかった事と、嶋野栄道の誘惑に対してきっぱり“ノー”と言つて一刻も早く、少しでも遠方へ逃げ去るべきであつたのに、その出来なかった自分自身の問題からも回復出来ずにいたため、僧伽や立派な方々に対し余計な苦勞を掛け、意見の不一致があつた事をここでお詫び申し上げます。

私の願ひは、この私の心からの手紙の全文を（序文も含めて）近日中に開かれる会議の席上で、心華シェリー シャイアト師か、げんじょう ジョー マリナ口師に読み上げて頂き、次の理事会の議事録に加えて欲しいと言う事です。

大菩薩禅堂へ到着してまだ新しかった私は、二階の図書室で一人座し、天井から床まで壁いっぱいには掛けられた日本の水墨画、地藏菩薩の複写絵に見とれていました。嶋野栄道が部屋へ来て私の側に座し、この水墨画の原画にまつわる感銘深い物語を聞かせてくれました。そして彼は私を抱きしめて唇にキスをしました。

当時私は若く、傷つけられやすい少女でした。私が16歳の時高校の人気のある教師により強姦され、性的陵辱を受け、これが約一年続きました。私は救いを求め、保護を求めましたが殆どの人びとの反応は、私の話が信じられず、又学校の名誉問題が第一の重要事項だったので。当時私にとって生存のために出来る唯一の事は、何事も無かつたかの如く振る舞う事以外ありませんでした。やがて、一人の私の友達も又、この同じ教師により同様の経験を受けた事が判明し、私達は共通の確証を持って校長に報告しました。当時は今と異なり、生徒を守る為に事件を公開するという法は実行されず、善処は成されませんでした。

嶋野栄道が私に性交渉を迫った時、彼は私の陵辱の歴史を知っていました。私の即座の想いは“ああ、又、止めて欲しい”でした。彼は私に悲惨な経験でなく、“楽しい経験”をさせてあげようと言いました。私が感じたことは唯、信じられない程の不安だけでした。私の存在全てが彼の前で竦み上がり、口をきく事も出来ず、なぜ彼の感情に真実性が見えないのであろうかと不思議な想いがしたのを記憶しています。私は彼に対して性的関心は全く無く、唯、高名な、既に結婚している禅教師との性交渉に吐き気を催す想いでした。未だ一度も会った事は無いのですが、彼の妻のことを尋ねると彼はため息をついて、彼女は精神的に具合が悪く、今は日本に住んでいると言いました。私には拒絶する適当な“理由”が見つからず、私の内部が凍ったようになって、彼の性交渉を拒む事が出来ませんでした。

その夜以来一年以上にわたる多くの性交渉の交際が始まったのですが、何時も嶋野栄道の誘導によって会合が計画されました。例えば廊下で会った時、又独参の時、彼は私に合図を送り、彼個人のアパートへ来るよう指図しました。クリスマスの休暇で私が両親の家へ帰っている時は、彼は電話で私を呼び出して、ニューヨーク市で会うよう計画しました。彼は是等の会合を秘密にしておこうと主張しました。なぜならば、発覚すると彼にとって困ったことになるであろうと言うのです。なぜ彼の要求を拒否出来なかったのでしょうか、何年か経た今やっと私には理解出来るのですが、私達の関係は両者同等の立場に立った合意のものとはほど遠い状態だったからです。彼は私の彼に対する信頼を利己利用し、それによって私自身の生来の能力を阻止したのです。過去の陵辱の経験により、家族や友達とも隔たった孤独な暮らしをしていた私を彼は見抜いて利己利用しました。この関係は私にとって回復どころか、終わりは完全に悲惨でした。DBZに住むことになった経緯も、悲惨な終局に至った経緯もこの手紙に書くには長くなりすぎるので省略します。

嶋野栄道に関して書かれた文書類の中でまだ目にした事のない重要な事の一つに、彼の性交渉の相手が多数であるため、性病を散布していた事です。DBZ内に住んでいた間、私は誓って彼以外、いかなる場所においても、いかなる人物とも性関係を持った事はありません。しかし嶋野栄道はこの同じ時期少なくとも二人、禅堂に住んでいた女性と性関係を持っていた事が後に明らかになりました。私の禅堂生活も終わりに近かった頃、私は一人の女性の事を知り、DBZを去ってからさらにもう一人の女性の事を知りました。今私は彼がこの他にもNYZの居住者、弟子、又外来の弟子達とも接触があった事も大いに可能性のある事だと推測しています。嶋野栄道は私達の関係は完全に独占的なものだと私に信じ込ませていましたけれども。

接心の期間中に私は性病の徴候を感じました。私が嶋野栄道にこの事を告げると、彼も又同じ徴候に苦しんでいるとの事、私は彼にすぐ帰宅して医者診断を得て治療しなければならないと話しました。嶋野栄道はガラス瓶に彼の尿を入れて私に手渡し、医者へ届け診断してもらうよう指図しました。彼はDBZの接心の指導があるため残らねばならないので、匿名にしておくように指図しました。医者がこのような患者のサンプルをテストする筈は無かろうと私は思いましたが、私の推量通りでした。

私の病気は完全に治療可能なSTD（性交によって感染する病気）だと言う事が分かりました。嶋野栄道は後で彼も又医者の手当を受けた事を私に語りました。彼は接心中の不快感は忘れられないと言いました。そのような経験があっても、弟子達の - 又彼自身 - の健康や安全を気使う様子は当時も、将来にもありませんでした。この経験が原因で私はDBZを去ろうと言う気持ちになりました。結局私の物語の全てを理事会員達に手渡しました（この手紙はその一部を語っています）が、弟子達の安全を守るため嶋野栄道を除去して善処を計る試みは当時も、現在に至っても、何も行なわれませんでした。彼の要求と関心、禅スタディ ソサイエティの名望が第一重要条件であるという理事会との共謀により、一般倫理の保全、戒、及び弟子達の安全は犠牲になりました。私の感染したSTDは、生命に危険のある他の性病ではなくて幸運だったと思っています。1990年に出版されたケティ パトラーの記事、“アメリカ仏教徒の隠れた危機”によれば、ある教団で無差別性交渉のあった住持によりAID(AIDS:後天的免疫欠乏症)が少なくとも一人、彼の教徒に感染した事を伝えています。

私は坐禅修行の美とその活力をよく知っている女です。私は又、DBZを取り巻く美しい自然が好きでした。湖、湖の向こうに立っている仏像、丘の上の地藏、岩の割れ目から伸びた木、雨に濡れた草木等、それらの美しい色が私は好きでした。私は典座になり（殆どの場合）この仕事が好きで、日の出前に起きて先ずオートミールを作り、パンを焼く準備を始め、同僚達のためにテーブルまで運ぶというこの日課が気に入っていました。親切な首座がいて、援助してくれました。坐禅修行や典座としての妙味は彼から学んだものです。分かりきった事ですが、私は他の寺院在住者達から離れて行きましたが、僧伽の人びとと交わった美しい思い出は忘れられません。総合的にこれら全てを思うと、やはり去って行く事は辛い事でした。嶋野栄道と違って私は完全に禅堂から姿を消しました。後に起きた彼のスキャンダルが収まった時、嶋野栄道は“行進する勇氣”という題名の文書を発表しましたが、女性達、男性達を破壊し、毒舌でもって中傷し、追い詰め - 全理事会を丸め込んで - 彼らの生命を踏みこじって成された行進は勇氣からはほど遠いものだと思います。

坐禅の修行はここでは問題ではありません。日本の文化はここでは問題ではありません。伝法の事等、私は興味がありません。嶋野栄道のした事は不正です。理事会が皆の安全を計らなかつた事は不正です。繰り返し目撃した事ですが、“何度も、何度も、何度も”嶋野栄道の破壊的行為を隠し続けた事は不正です。座褥から立ち上がったその時のように、心を凝らして坐禅に入る時のように、自らの時間とエネルギーの焦点を正し、清冽な命がけの修行に集中する事も出来た筈です。

今日まで、私の多大な時間とエネルギーは嶋野栄道の方向に消耗されました。エネルギーは禅弟子の教育のため、健全な指導のために費やすべきものです。理事会を脱退したメンバー達（一部は現メンバー；ばんこう ランディ フィリップス、げんじょう ジョー マリネロ、せいがん エド グラッシングを含めて）大勢のZSS前弟子、大勢の禅教師達が指摘している事ですが、嶋野栄道こそ僧伽、又未来のZSSに対して計り知れない害悪を及ぼしています。私のような弟子は、（時には家族や友人までも）彼のために計り知れない、将来への可能性、環境、又健康さえも傷つけられ失うといった経験を致しました。

嶋野栄道が訪問の特典なしに、退去を言い渡され、又心底、情をもって自責を表明するまで - 暴露される事を恥じる為でなく - 弟子達、受戒僧、尼僧、法嗣等、実質的な投票数に達するまで現実に目覚め、被害者への法的賠償問題の計画が成立する迄、弟子達は、長期に渡り延期され続けて来た、指導者としての責任問題を追求して、問題解決のための車輪を回し続けなければなりません。

“犠牲”という言葉は傷ついたという意味ですが、本当の正体を表してはいないと思います。私の言う意味はもっと絶対的で隠す事の出来ない、汚点の全く無い状態を指します。それは思いがけなく開かれ、例えば海岸を歩いたり、共に自由な立場にある、愛する人と共に時を過ごすようなものです。これは私に畏怖と喜びをもたらします。生きている事がどのようなものであろうとも、生命力は常に再現を繰り返し、多くの人びとは様々な経験を経た後、これを得、私はこれを尊び、これを手に入れた人に敬意を表します。

最近のノーマン フィッシャーの“貴方が私に挨拶をした時私は貴方に頭を下げましょう”と言う題名のオンライン法話がありましたが、彼は雄弁に老齢の禅教師と彼の弟子との間に存在する空間を手短かに述べて... “只、思いやりの心を抱き合い、共に語り、互いの深い人間性の存在に感謝する、これが教えの全てである”と言っています。

オリヴィア

（このペンネームは、嶋野栄道や禅スタディ ソサイエティよりこれ以上攻撃を受けずに、私個人の生活を継続するためのものです。秘密はありません。場合によっては、将来実名を使用することもあると思いますが、それまで、私の匿名を認めて下さい。関係者達は皆私が何者であるか知っています。私は今、フィラデルフィアで、平和社会年会の委員会で書記を勤めています。- クエーカー）